

# 読者ふれあいページ

「こちら虹」は楽しかったこと、感重  
ことを教えてください。「お助け倶楽音  
アイデアやお知恵をお寄せください。雑  
電話番号を明記ください。電話は土、日

## 観音様になった娘

出雲市斐川町・仁照寺住職

江角 弘道

平成11年12月26日、大  
生だった私の娘と友達3人  
の乗った車は、飲酒運転の  
車に正面衝突されました。  
この事故で、娘も含め3人  
の女子学生が即死しまし  
た。

金魚のおほか(作詞 金  
子みずぶ)

暗いさみしい土の中、金  
魚はなにをみつめてる。  
夏のお池の藻の花と、ゆれ  
る光のまぼろしを。しず  
かなしずかな土の中、金魚  
はなにをきいている。そ  
っと落ち葉の上をゆく、夜  
の時雨の足音を。つめた  
いつめたい土の中、金魚は  
何を思ってる。金魚屋の  
荷の中にいた、むかしむか  
しの友達を。(JULA出  
版局「金子みずぶ全集」か  
ら引用)  
その後、この童謡詩を

# 混迷・生きる

教えの庭から

たまたま読んだとき、まる  
で娘が生きて話しかけてく  
れているような感覚におそ  
われました。この詩は、死  
んだ金魚のことを歌ってい  
ますが、金魚になぞらえて、

理不尽な死をとげた娘の  
ことは、いつも心の中にあ  
ります。思い出すたびに悔  
しき・悲しさがこみ上げて  
くるのです。  
ある時、尊敬していた上



実は人間のことを歌ってい  
ます。亡くなった金魚が、  
墓の中で見たり、聞いたり、  
思ったりしているであろう  
と作者は詠んでいます。亡  
き子のことを、ありあり  
と思ひ出させ、涙を誘いま  
す。

そして、「悔しいけど、娘  
が空から生まれてきて色と  
は、観音菩薩となって、父  
母を導いている。けれど、  
そんな尊い菩薩様になっ  
ってほしくなかった」と思  
いました。  
その後、毎朝、お仏壇の  
前で念仏し、そして般若心  
経・観音経を誦経していま  
すが、その生活が一年ほど  
経った頃、子どもの頃から  
慣れ親しんでいる般若心経  
の一節「色即是空 空即是  
色」が突然、心に湧き上が  
ってきました。「存在する  
ものはみな空なり」と教え  
るこのお経の中の「空」と  
いうことが、鮮明にイメー  
ジできるようになってきた  
のです。  
それは、私と妻が結婚す  
る前には、娘はいませんで  
した(無・空といえる)。結  
婚後に生まれ、私たちと  
20年間暮らしました(色・  
目に見える形のあるもの)。  
そして亡くなりました(無  
・空といえる)。  
この経過は、「いのち」

人様に、「娘は、どこにい  
ったのでしょうか」と思い  
切って尋ねてみました。上  
人様は、「お嬢さまは、観  
音様ですね」とだけ答えら  
れました。そのときに、な  
ぜか涙があふれて、どうし  
ようもありませんでした。  
「観音様などになってほ  
しくなかった」と思ってい  
た頃、私はまだ娘を自分  
の中に抱え込んでいました。  
しかし、観音様になった娘  
は、秋川雅史さんが歌う  
「千の風になって」の歌詞  
にあるように、お墓の中か  
ら飛び出して、大きな空を  
飛びまわって、父母に話し  
かけているようです。  
七回忌には、境内に観音  
像(高さ3・5尺)を建立  
し、台座には娘の思いを汲  
んで「交通安全観音」と書  
き記しました。観音像を拜  
みながら、娘は、空から生  
まれ、父母たちよりも先に  
空に帰り、観音様になっ  
ていると妻と肯きあいまし  
た。